

団体名	東広島市	所属	都市計画課	他団体等との連携	白市景観形成委員会
連絡先	都市計画係 (082) 420-0954				

取組事例名	東広島市 ^{しらいち} 白市地区のまちづくり	取組期間	平成9年1月～
--------------	---------------------------------	-------------	---------

取組の概要 ～ 地域住民が主体のまちづくり

東広島市白市地区では、歴史的な街並みを活かしながら、住み続けることができる魅力的なまちづくりを進めるため、平成9年に地域住民が主体となって「白市景観形成委員会」を設立し、活発なまちづくり活動に取り組んでいる。この他にも地域の交流活動やボランティアガイドなど、積極的な活動を継続している。東広島市も協働し、住民主体の活動への支援を行っている。

取組の背景 ～ 歴史と文化のまち「白市」

白市地区は、東広島市の東部、市中心部から約9 kmの距離に位置する。本地区は、平安時代末期に現在の養国寺の門前町として形成され、江戸時代からは商業の町として繁栄し、歌舞伎・サーカスの興行が行われるなど、にぎわいのある町であった。地区内には、国の重要文化財である木原家住宅をはじめ、古くからの町屋や赤瓦の家並みが残されており、景観に配慮したまちづくりを進めている。

取組のねらい ～ 街並みづくり・地域の魅力づくり

白市地区では、「歴史を感じるまち」、「季節を感じるまち」、「ふれあいのある、人に誇れるまち」を目標として掲げ、地域の住民が主役となった「住みよい、明るい、楽しい」まちづくりを目指している。

取組の具体的内容 ～ 住民と行政の協働による白市地区のまちづくり

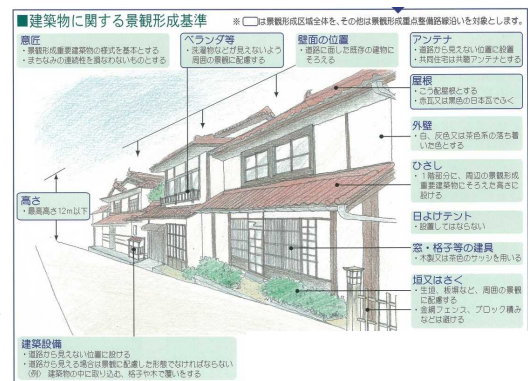
1 住民主体・住民相互の取組

(1) 住宅の修景、緑化、環境美化など

- ア 白市地区の特色ある街並みを維持しながら、良質な住宅として住み続けられる住みづくりに取り組む。
- イ 地域を特徴付ける緑の保全や緑化、清掃活動などの街並みをつくる。
- ウ 景観形成を図るために守るべき基準をまとめる。

(2) 自主的な活動の展開

- ア 白市の歴史・文化を学び、それを伝えるイベントの開催、地元小学校との交流活動、観光客向けのボランティアガイドなどの取組を続けていく。
- イ 広場や公園、史跡などの適切な維持管理に努めるとともに、白市の魅力を高める資源を有効に活用していく。



景観形成基準

2 行政が支援する取組

良好な街並み環境づくりのための施設整備

- ア 街並み景観との調和に配慮して、下水道の整備にあわせ、道路舗装の美装化を行う。
- イ 来訪者に街歩きの情報をお知らせする観光案内板や誘導サインを設置する。
- ウ 地域住民の憩いの場や散策ルート沿いの休憩の場として、公園や広場を整備する。
- エ 地域での活動の輪を広げ、より深めていくために、地域の交流、歴史文化の伝承、来訪者のおもてなしなどを行う交流拠点として、旧集会施設を新たな交流会館に再生するための施設整備を行う。



カラー舗装による美装化

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 自分たちのまちを知ろう

白市地区のまちづくりは、平成9年に「白市景観形成委員会」を発足したことから本格的に始まった。

- 1 まず、自分たちの住むまちについて知ることから、始める必要があった。
- 2 初めの頃の話し合いは、各々が意見を主張し合うことが多かった。

創意工夫した点 ～ 人から聞いてみることに、続けること

- 1 自分たちの住むまちについて知るため、勉強会から始めることとした。白市地区をよく知る有識者や、まちを訪れる人たちから白市の魅力を聞くことで、次第に自分たちの住むまちのすばらしさを実感していった。
- 2 初めは各々意見を主張し合うだけだった話し合いも、継続していくことによって、徐々に他の人の意見を聞き入れ、実のあるものになっていった。以降、白市景観形成委員会は、現在まで97回の会議の開催に至っている。



会議の様子

取組の成果（効果） ～ 整いつつある街並み環境

白市地区のまちづくりは、主体である地域住民と、その意見を取り入れながら支援を行う市との協働で進めている。

白市景観形成委員会でまとめた景観形成基準を基に、平成15年に市が白市地区景観形成要綱として制度化した。

環境整備では、観光案内板、探訪マップ、公園などが完成し、これら全てに住民の声が活かされている。

また、完成した2箇所の公園の清掃や花の手入れなどの管理は、住民によって行われている。公園里親制度の活用により、市が里親である住民に、清掃用具の貸与と植栽等に必要な材料の提供もできるようになった。



観光案内板

今後の展開 ～ 交流・くつろぎ・伝承・おもてなし・情報発信の場「交流会館」

白市地区の住民がまちづくりに取り組み始めて17年が経過し、イベントの開催や交流活動など白市景観形成委員会の活動回数は、300回を超えている。平成18年度から着手した施設整備は、公園・広場ができ、現在、下水道工事による舗装の復旧後に、カラー舗装を施す美装化を進めている。新たな交流拠点となる交流会館についても設計がまとまり、整備への期待が高まっている。この会館の管理は、住民主体で行えるよう検討している。



来訪者のもてなし

他団体へのアドバイス ～ まちづくりの原点は、地域資源

「このまちで、欠かすことのできないもの。それは、白市に住み、白市を愛する住民。そして、白市に住む人、訪れてくれる人がどうすれば喜んでくれるだろうと考え、毎日が楽しい。」（白市景観形成委員会会長）

歴史的な街並みが残る白市地区では、白市景観形成委員会の発足以前に、文化活動を行う団体が途絶えていた白市歌舞伎を復活させたという背景があった。歴史と文化に関する高い住民の意識が、行政の支援も加わって、継続した取組へとつながっている。